

1 学校教育目標

学ぶ 鍛える 思いやる

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	持続可能な社会の実現に向けて 社会の変化に対応し進化し続ける学校 安心・安全な学校
○児童・生徒像	自分を律し（自律）、多様性を受け入れ（協働）、豊かな創造性を備え（創造）、持続可能な社会の創り手となる生徒の育成 1 文章や情報を正確に読み解き、対応する力をもつ生徒 2 様々な分野に対して好奇心、探求心をもつ生徒 3 他者の意見を受容し、調整する力を身につけた生徒 4 困難なことを乗り越える力をもつ生徒 5 価値を見つけ出す感性と力を備えた生徒
○教師像	持続可能な社会の創り手の一員として、多様性を受け入れ、新たな価値を創造する教師 Society5.0を生きる生徒を育てる教師 学び続ける教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

1 学校の現状と課題
多様な価値観を受け入れ、協働していく社会において、自分を律することは大変重要な要素である。学びの意欲が向上する基盤となるのは生活規律の確立、規範意識の醸成が重要である。生活指導の徹底を図り、安全・安心な学校をつくりあげていきたい。
本校生徒は、学習意欲や自己肯定感が高いが、各種学力調査の結果は満足できるものではない。基礎基本の定着と読解力向上の取り組みを継続させ、主体的な学びの活動を取り入れ、思考力・判断力・表現力を育成していく。

2 成果
生徒の学力向上には、教師の授業改善・授業力向上が不可欠である。教師の授業観察週間と研修の実施は今後も継続していく。A I ドリル、I C T 機器、Google Work space for Education を教育活動全般に取り入れ、G I G A スクール構想を進めることができた。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	生活規律の確立、規範意識の醸成	○	○	○	○	○
3	支援の必要な生徒、不登校生徒への継続的支援	○	○	○	○	○
4	学校、家庭、地域の協働による生徒の育成	○	○	○	○	○

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
学びの基礎と学習意欲の向上		学びの基礎の向上3%上昇 年度未到達度テスト正答率 50%				自己評価の際に記入			
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクション プラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	A I ドリ ルの活用	5 教科 (国数英 社理) 全学年	通年 週1回	朝学習、放課後補充等でA I ドリルを活用する。	Qubena マネー ジャー 区学力調査意 識調査 生活アンケー ト	学びの基礎の 向上。該当項目 3%上昇	自己評価の際に記入		
2 継続・ 新規	Google Work space for Education の活用 読解力向 上の取組	5 教科 (国数英 社理) 全学年	通年	各教科の特性や単元の性質に あわせ、Google Work space for Education を活用した学 習を推進する。 読解力向上のため、NIE、朝読 書を継続し、新たにビブリオ バトルを実施する。	区学力調査意 識調査 生活アンケー ト 各種コンテス ト	学びの基礎の 向上。該当項目 3%上昇			
3 継続	教員の授 業力向上 の取組	全教科 全学年	通年	全教員 足立スタンダードの徹底 十三中スタンダードによる授 業観察週間の設定と振り返り 研修の実施 小中連携を軸とした授業研究 I C T 機器・ツールの積極的 活用	生徒による授 業アンケート	「めあて」「まと め」の実施100% 「指示や説明のわ かりやすさ」80% 以上 「学ぶ楽しさ」 80%以上			

重点的な取組事項－２		生活規律の確立、規範意識の醸成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生活規律の確立、自律心の育成		生活アンケート等による該当項目 前年度比現状維持～３％上昇	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
安心・安全な学校生活を送るために生活規律の徹底	生活アンケート「あいさつ、服装、持ち物などについて、学校のきまり」を守っている９０％以上	生活指導の徹底 生徒会執行部や学年委員会を中心に、生徒の主体的な活動を取り入れた生活規律徹底のための活動を展開	自己評価の際に記入		
情報モラルの醸成	生活アンケートにおけるSNSトラブルに巻き込まれたことがある生徒の割合１０％以下	セーフティ教室を軸とした情報モラル教育の実施と保護者への啓発活動の実施			
いじめ防止に向けた取組の実施と早期発見早期対応	いじめアンケートによるいじめの申告が各学年３％以下を目指す	休み時間等の巡回。生徒の見守りを常に行い、早期発見早期対応につなげる。 WebQUアンケートの結果分析と研修会の実施 SC・SSWとの連携 生活指導部、いじめ防止対策委員会を中心とした組織マネジメントによるいじめ対応。 外部機関との適切な連携			

重点的な取組事項－3		支援の必要な生徒、不登校生徒への継続的支援			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
支援を要する生徒の情報共有 特別支援教室の円滑な運営 不登校生徒への継続的な支援		関係諸機関との円滑な連携 特別支援教室退級見込み生徒の増加 教室復帰を目指せる生徒の増加	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
支援の必要な生徒に対する情報共有と適切な支援の提供	支援の必要な生徒の居場所作り 外部専門機関との円滑な連携体制の構築	定期的な特別支援教育委員会の開催 S C、S S Wと連携した多面的なカウンセリングと支援 外部専門機関との適切な連携（ケース会議等の開催）	自己評価の際に記入		
特別支援教室の円滑な運営と連携体制の構築	取り出し授業の円滑な実施。所属学級担任との十分な情報共有と連携 退級見込み生徒の増加 連携小学校との円滑な情報共有	特別支援コーディネーターを中心とした特別支援教育委員会等での情報共有と調整 円滑な個別支援計画の作成と実施			
不登校生徒に対する継続的な支援	教室復帰を目指せる生徒の増加	S S W、登校サポーター、チャレンジ学級等の活用 個別対応を要する生徒の居場所の確保と学習支援を行うS Sルームの組織的な運営			

重点的な取組事項－４		学校、家庭、地域の協働による生徒の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
地域人材を活用した教育活動の実践 地域への帰属感・誇りの醸成		生活アンケート「地域に貢献できる大人になりたい」60%以上	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
地域と協働した活動の推進	生活アンケート「地域に貢献できる大人になりたい」60%以上	地域文化祭「あしの芽祭」への参加	自己評価の際に記入		
地域人材を活用したキャリア教育の実践	保護者アンケート「学校はキャリア教育によく取り組んでいる」の「わからない」を5%減少	開かれた学校づくり協議会を中心とした地域人材による「職業人の話を聞く会」（1年）マナー講座（2年）、面接指導（3年）等の実施 キャリア教育に関する情報発信			

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

自己評価の際に記入します。
経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）